

イー・アクセス株式会社 【9427】

2005年3月期 第3四半期 決算説明資料
(2004年4月 ~ 2004年12月)



2005年2月10日

I. 2005年3月期 第3四半期決算の総括 3ページ

II. 2005年3月期 第3四半期決算の詳細について 7ページ

III. 総括 16ページ

I. 2005年3月期 第3四半期決算の総括

3ページ

II. 2005年3月期 第3四半期決算の詳細について

7ページ

III. 総括

16ページ

- 売上高は425億円（前年同期比56%増）、経常利益は65億円（前年同期比5.7倍）となり増収増益を達成。
- フリー・キャッシュ・フローの拡大等により、12月末時点でネットキャッシュを実現。12月末の現預金残高は446億円となる。
- 格付投資情報センター（R&I）から、“BBB（トリプルB）”の格付を取得。
- 新たな成長分野であるモバイル事業参入の為、100%子会社イー・モバイルを設立。
- 通期業績予想の上方修正と創業からわずか5年で東証一部市場上場を記念し、1,000円の年度末配当に加え、200円の記念配当を予定。

2005年3月期 第3四半期 実績

	2004年3月期	2005年3月期	前年同期比	
	第3四半期 (2003/4-12)	第3四半期 (2004/4-12)		
売上高	272.9億円	424.5億円	+151.6億円	+56%
営業費用	250.5億円	351.8億円	+101.3億円	+40%
営業利益	22.4億円	72.7億円	+50.3億円	+225%
経常利益	11.4億円	65.1億円	+53.7億円	+472%
当期純利益	11.3億円	74.7億円	+63.4億円	+560%

●売上高は、ADSL加入者数の増加とAOL事業の売上高が加わり、前年同期比56%増加。第3四半期までで425億円の売上を計上。

●営業費用は、通信設備使用料（バックボーン、コロケーション費用等）の低下と設備投資効率向上により、加入者あたりのコストが削減。

●営業利益率は、前年同期の8.2%から17.1%に上昇。

●経常利益は、前年同期から5.7倍増加し65億円の利益を計上。

●当期純利益は、特別損益の計上（ネット9.7億円）もあり前年同期の6.6倍となる。

2005年3月期 通期業績予想の上方修正

第3四半期の特別利益計上により、通期の当期純利益見通しを上方修正。

	2004年3月期 実績	2005年3月期 前回発表予想 (11/10発表)	2005年3月期 上方修正予想 (2/10発表)	予想修正率 (%)	前年同期比 (%)
売上高	381.4億円	580.0億円	580.0億円	± 0%	+52%
経常利益	27.2億円	70.0億円	70.0億円	± 0%	+157%
当期純利益	23.6億円	67.0億円	80.0億円	+19%	+239%

I. 2005年3月期 第3四半期決算の総括

3ページ

II. 2005年3月期 第3四半期決算の詳細について

7ページ

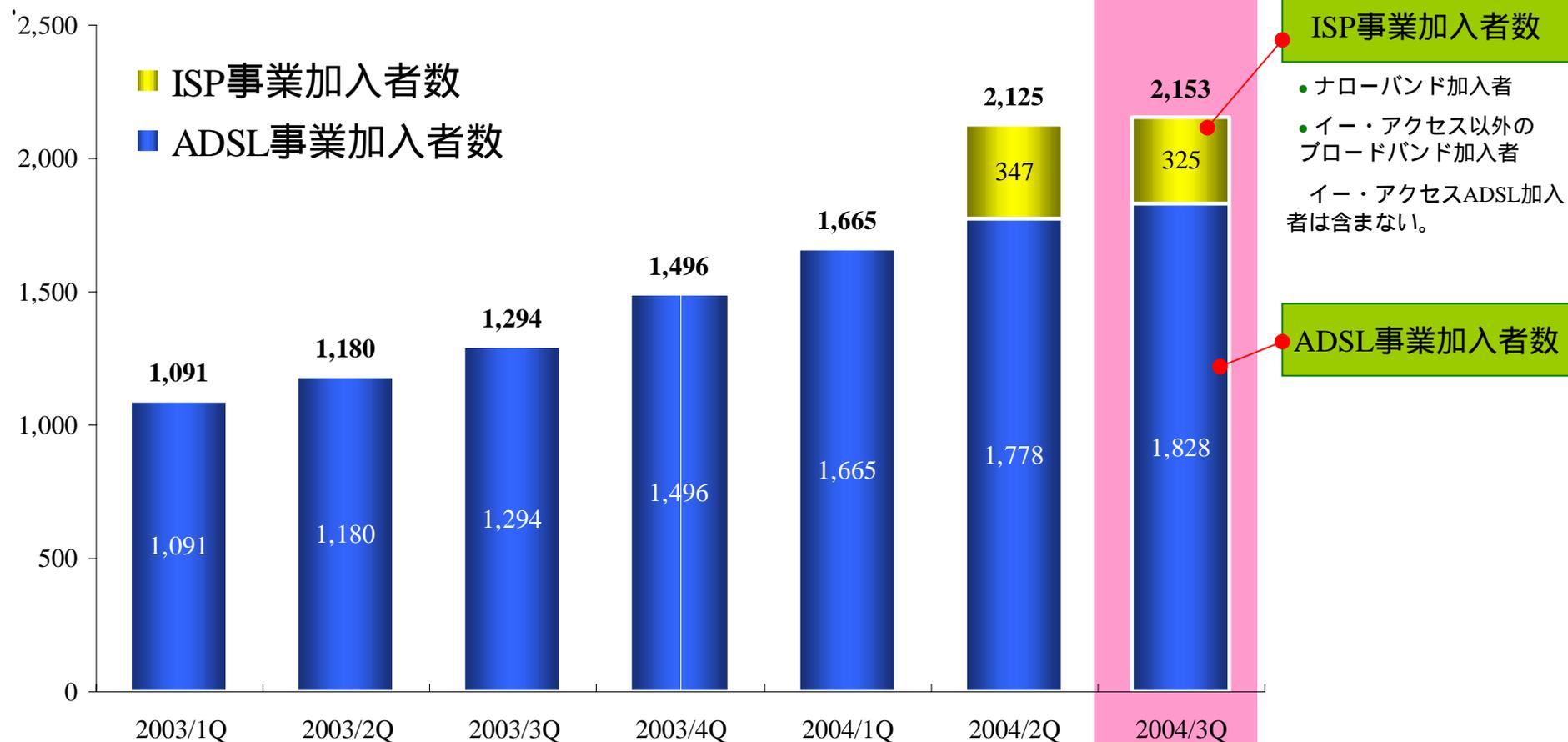
III. 総括

16ページ

イー・アクセスの加入者数の推移

12月末の加入者数は215万人に到達。ADSL加入者数は前年同期比41%の増加。

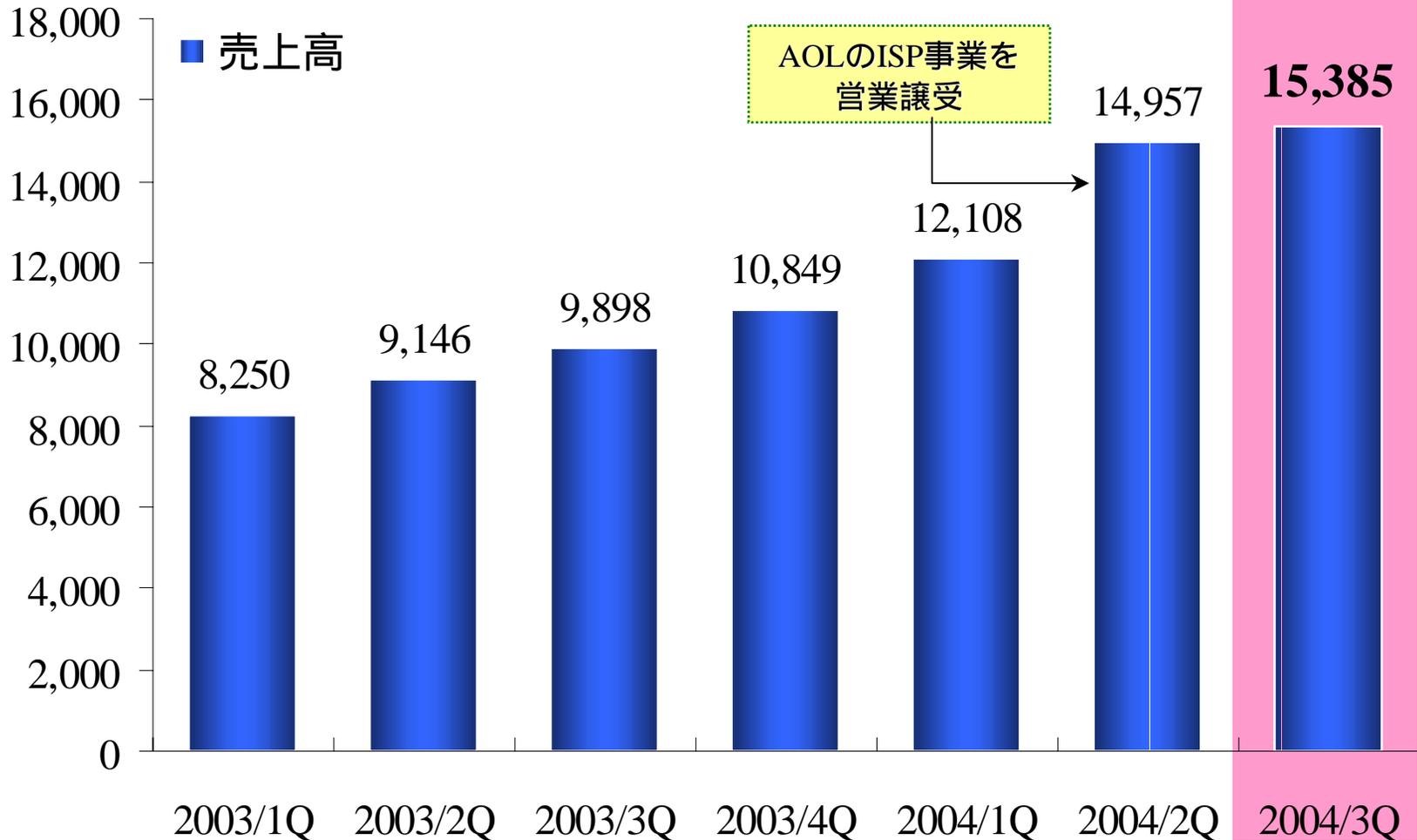
(累計加入者数：千回線)



売上高の推移

ADSLの加入者数増加、AOL事業の統合とブロードバンド化促進により
売上高は前年同期比55%増加。

(売上高：百万円)

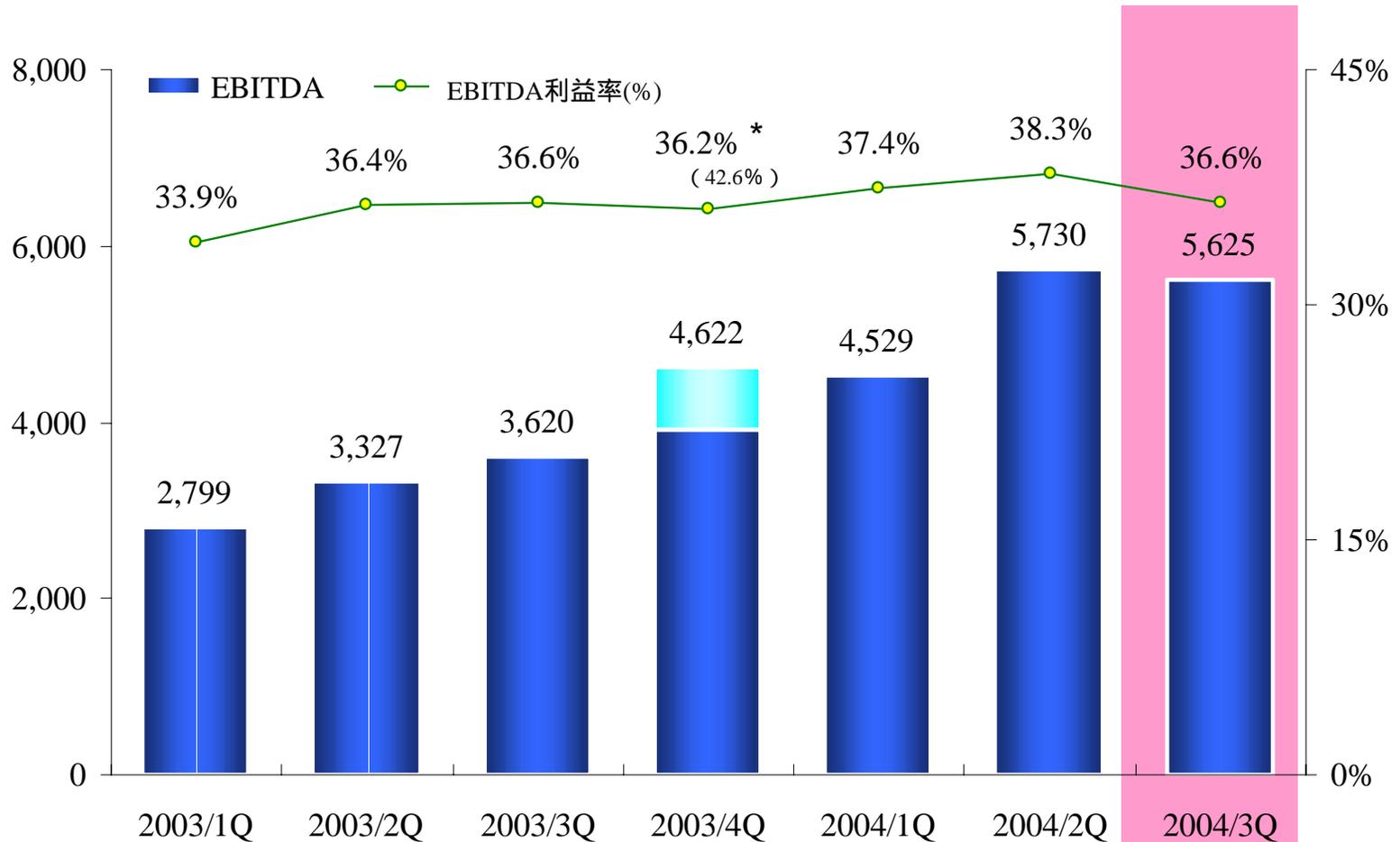


EBITDAとEBITDA利益率の推移

第3四半期のEBITDAは、前年同期比55%増加しEBITDA利益率は36.6%。

(EBITDA：百万円)

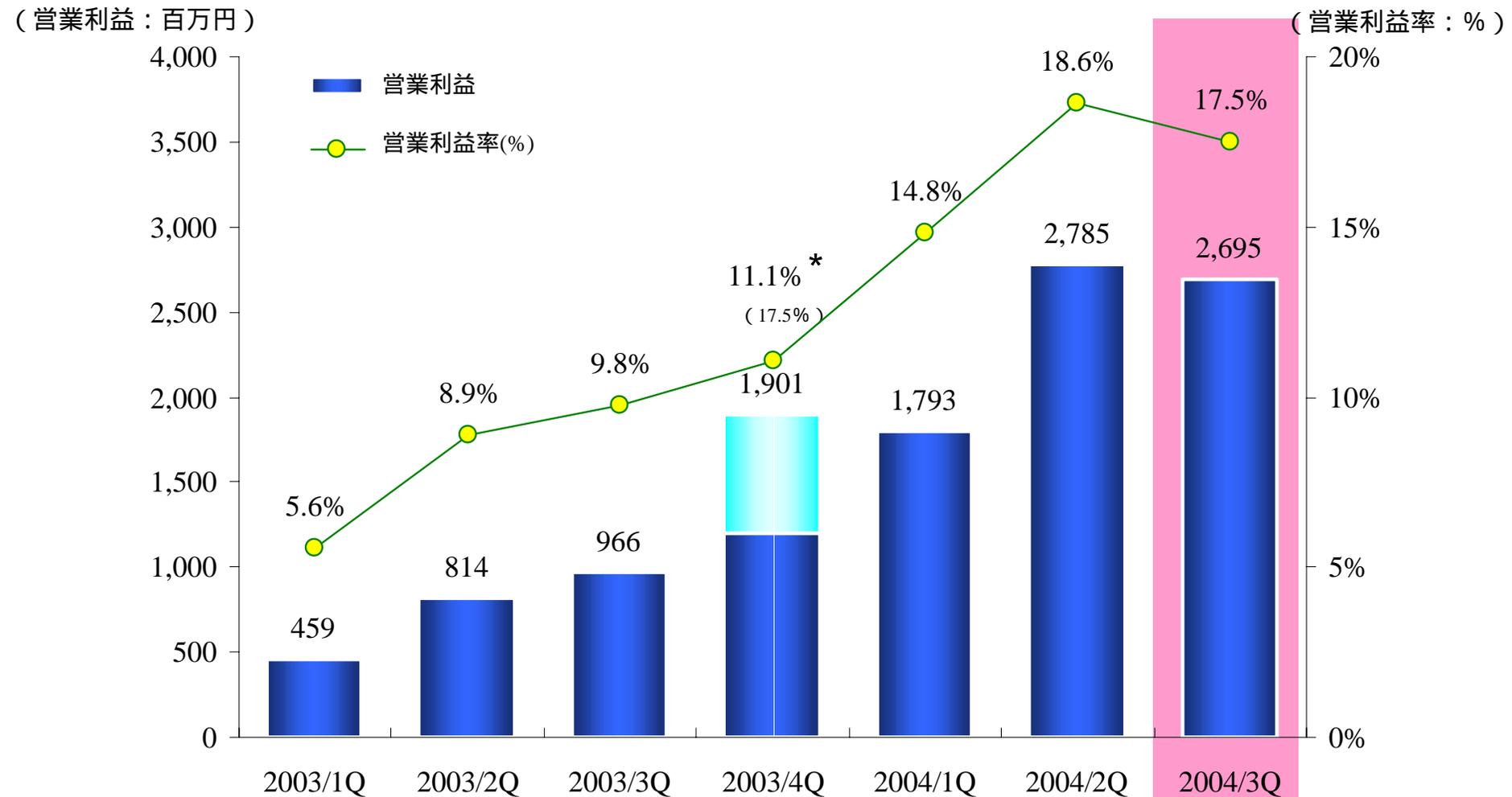
(EBITDA利益率：%)



*2003年度 第4四半期のNTT関連費用、接続料金の見直しによる遡及精算（一時的な利益計上）の影響を控除したEBITDA利益率は36%。控除しない場合のEBITDA利益率は42.6%

営業利益と営業利益率の推移

第3四半期からの販売チャネル強化により、
営業利益率は低下したが17.5%の利益率を確保。



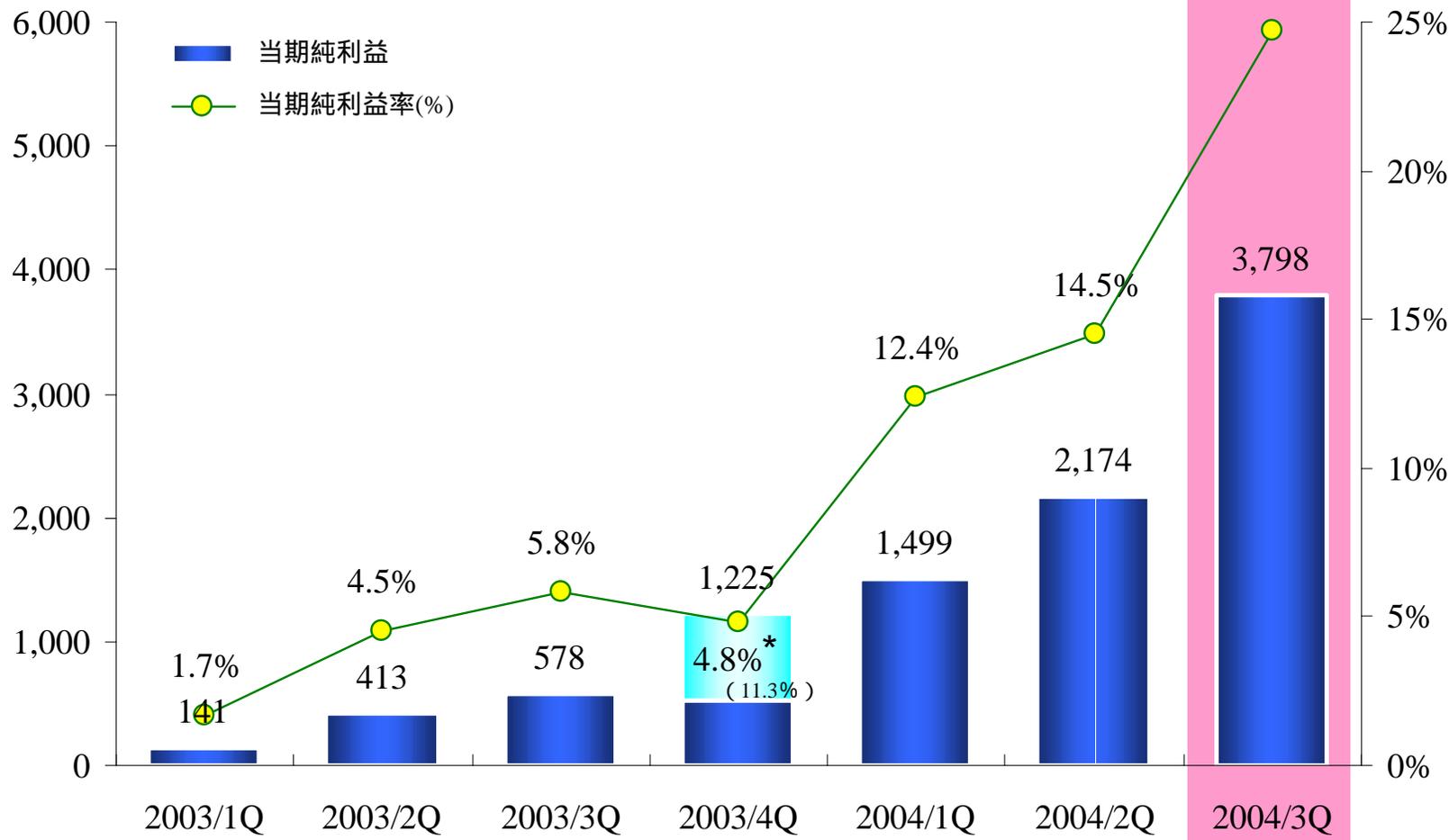
* 2003年度第4四半期のNTT関連費用、接続料金の見直しによる遡及精算（一時的な利益計上）の影響を控除した営業利益率は11%。控除しない場合の営業利益率は17.5%。

当期純利益と当期純利益率の推移

特別利益計上の影響もあり、第3四半期の当期純利益は38億円を達成。

(当期純利益：百万円)

(当期純利益率：%)



*2003年度 第4四半期のNTT関連費用、接続料金の見直しによる遡及精算（一時的な利益計上）の影響を控除した当期純利益率は約5%。控除しない場合の当期利益率は11.3%

バランスシートの状況

商用サービスから4年目で、実質無借金経営を実現。

	2004年3月期 (2004年3月末)		2005年3月期第3四半期 (2004年12月末)		増減額
	期末残高	総資産に 対する比率	期末残高	総資産に 対する比率	
現預金残高	184.0億円	37.4%	446.3億円	59.5%	+262.3億円
有利子負債	271.8億円	55.2%	384.8億円	51.3%	+113.0億円
•銀行借入・リース債務	271.8億円		154.8億円		-117.0億円
•転換社債	0億円		230.0億円		+230.0億円
純有利子負債	87.9億円	--	-61.5億円	--	-149.4億円
資本合計	159.6億円	32.4%	264.4億円	35.3%	+104.8億円
•資本金	136.7億円		151.7億円		+15.0億円
•資本剰余金 (累損解消考慮後)	22.9億円		38.0億円		+15.1億円
•利益剰余金 (累損解消考慮後)	0億円		74.7億円		+74.7億円
総資産	492.0億円	100.0%	749.9億円	100.0%	+257.9億円
純有利子負債/資本比率	55.0%	--	-23.3%	--	--

格付けの取得について

- 格付投資情報センター（R&I）から長期優先債務格付けBBB（トリプルB）を取得
- 黒字化、累損解消、純有利子負債ほぼゼロ等、健全な財務基盤が評価される
- ADSLに加え、準備中のモバイル事業に関する現時点での評価も含む

【参考】 他の主な「BBB」企業（2004年11月30日現在）

全日本空輸(ANA)、松井証券、住友金属工業、日本テレコム、他

株主に対する利益還元の検討

創業以来初めての年度末配当に加え、記念配当の実施を検討

- 今期の一株当たり当期純利益は5,888円の見通し。
- 株主還元策として、今年度末1,000円の配当予定を発表済。
- 東証一部市場上場、業績上方修正を踏まえ、一株当たり200円の記念配当の実施を検討。
- 発表済みの年度末配当と合わせて1,200円の配当となり、今期の配当性向は20.4%の予定。

I. 2005年3月期 第3四半期決算の総括 3ページ

II. 2005年3月期 第3四半期決算の詳細について 7ページ

III. 総括 16ページ

- ADSLホールセールから、メタル電話向けADSLサービス提供へのADSLサービス提供の転換期。
- AOLのブロードバンドへの移行は計画通り進捗し、ADSL事業とのシナジー効果が現れている。
- 投資の回収期に入ったADSL事業は加入者獲得と設備投資のバランスをとりつつフリー・キャッシュ・フローの最大化を図る。
- 100%出資子会社のイー・モバイルを設立し、モバイル事業の免許取得を目指す。



モバイル事業参入に向け着実に事業基盤を強化

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。